

2026 年度 人間科学研究科参考文献リスト

領域で研究する上で参考になる資料を挙げていますので、進学を検討する際の参考にしてください。なお、この文献は入試問題と直接関係するものではありません。入試問題については、過去2年分をHPで公開しています。

■ 心理学領域

1. ドナルド・D.ホフマン著 Hoffman D. D. 原淳子・望月弘子. (2003). 視覚の文法：脳が物を見る法則. 紀伊國屋書店.

推薦者からひとこと 人間がいとも簡単に実現している知覚、つまり「見る」や「聞く」とは、一体どういうことなのだろうか。本書「視覚の文法」は、身近でありながらも奥が深い視覚世界の謎に実験心理学のアプローチで迫る、人間科学としての心理学のエッセンスが詰まった一冊である。

2. 高野陽太郎・岡隆編 (2017). 心理学研究法 心を見つめる科学のまなざし 補訂版 有斐閣アルマ.

推薦者からひとこと 心理学研究における、科学的な実証的研究の重要性や基本のロジックをわかりやすく解説。近年の変化に対応し、「効果量」や「信頼区間の活用」に関する新たな節が補訂されています。

3. スタノヴィッチ, K. E. 金坂弥起 (監訳) (2016). 心理学をまじめに考える方法：真実を見抜く批判的思考 誠信書房

推薦者からひとこと 心に対して科学的にアプローチするとは、どういうことであろうか。また、なぜ科学的にアプローチする必要があるのだろうか。本書には、心について考える一般人や心を研究する者に求められる姿勢や考え、知恵がわかりやすく書かれている。

4. 村上郁也. (2010). イラストレクチャー 認知神経科学：心理学と脳科学が解くこころの仕組み. オーム社

推薦者からひとこと 本書では、心理学の基礎研究をすすめる上で必須の知識であるさまざまな認知機能とそれを支える脳のメカニズムについて幅広くわかりやすく解説されている。本格的な研究に入る前に、まずは本書に一通り目を通しておくことをおすすめしたい。研究を行う際には辞典的に使うこともできる。

■ 臨床心理学領域

1. 野島一彦・岡村達也編 (2018). 臨床心理学概論. 遠見書房.
遠見書房「公認心理師の基礎と実践シリーズ」の一部であり、基礎的な理論概念や実践の分かりやすい概説となっている。
2. 津川律子・遠藤裕乃編 (2019). 心理的アセスメント. 遠見書房.
遠見書房「公認心理師の基礎と実践シリーズ」の一部であり、心理アセスメントという心理職にとっての柱の一つを分野や対象別にわかりやすく解説している。大学院の勉強だけでなく、実践家にとっても使いやすい一冊となっている。
3. 下山晴彦・石丸径一郎 (2020). 臨床心理学概論. ミネルヴァ書房.
分かりやすくみやすく学びやすい臨床心理学の基礎を集約している。大学院に入るまえに復習しておきたい基礎が満載。
4. 岩壁茂・遠藤利彦・黒木俊秀・中嶋義文・中村知靖・橋本和明・増沢高・村瀬嘉代子 編 (2023). 臨床心理学スタンダードテキスト. 金剛出版.
臨床心理学の第一人者らによる重要概念の解説。1000ページにのぼるが臨床心理学の実践・研究の幅広い領域を網羅している。タイトルの通り「スタンダード」とも言える大著。
5. 村瀬嘉代子(2020). 子どもの心に出会うとき—心理臨床の背景と技法. 金剛出版.
人と人が出会うという心理臨床の世界の本質に迫る。事実を伝え、そして心的世界を豊かに描く著者の臨床的センスは、時代を超えて人々の心に訴える。
6. ヴィクトール・E・フランクル(2002). 夜と霧 新版. みすず書房.
ドイツ強制収容所体験をつづった本書は、人間という存在の本質に迫る。時代を超えて多くの人たちに生命について考える重要な一冊である。
7. エーリッヒ・フロム(2020). 愛すること. 紀伊國屋書店.
人はなんのために生き、何をもって幸福感を覚えるのか。愛は常に人の生の関心と憧れの対象となってきたが、人は愛することについてどれくらい知っているだろうか。愛について色あせない論稿である。
8. ジュディス・L・ハーマン(2024). 真実と修復—暴力被害者にとっての謝罪・補償・再発防止策. みすず書房.

世界的にトラウマに関心が集まっている。ハーマンはトラウマの第一人者であり、心理的な傷が社会の不正義や暴力といかに関わっているのか解説する。現代の必読書である。

■ 実践人間科学領域

実践人間科学領域は、「多様性社会実践」「対人援助実践」「社会心理学実践」という3つの科目群を軸に様々なフィールドでの人間科学の実践を目指す領域です。実践人間科学領域が扱うトピックは、心理学、臨床心理学に加えて健康科学、社会学、社会福祉学、社会病理学、教育学、文化人類学、経済学、組織行動学など隣接する人文・社会科学を含みます。この領域の柱となる科目「心理プラス Com (PBL)」にて、院生たちは各フィールドでの課題を抽出し、その成果の分析検討を行います。受験にあたっては、以下のような書物を参考にして、問題意識を磨いてください。

1. Dan Simon (2012). *In Doubt: The Psychology of the Criminal Justice Process*. Harvard University Press. (ダン・サイモン (著) 福島 由衣・荒川 歩 (訳) (2019). その証言、本当ですか? ――刑事司法手続きの心理学―― 勁草書房)
2. 井川 充雄・木村 忠正 (編) (2022). 入門メディア社会学 ミネルヴァ書房
3. 金井 壽宏・高橋 潔・服部 泰宏 (2025). 組織行動の考え方 (新版) 東洋経済新報社
4. 笠原 広一・リタ L アーウィン (編) (2019). アートグラフィー――芸術家/研究者/教育者として生きる探求の技法―― ブックウェイ
5. 岸上 伸啓 (編著) (2018). はじめて学ぶ文化人類学――人物・古典・名著からの問い―― ミネルヴァ書房
6. 北村 英哉・唐沢 穰 (編) (2018). 偏見や差別はなぜ起こる? ――心理メカニズムの解明と現象の分析―― ちとせプレス
7. 村本 邦子 (編) (2023). 災厄を生きる 物語と土地の力――東日本大震災からコロナ禍まで―― 国書刊行会
8. 日本コミュニティ心理学会研究委員会 (編) (2019). コミュニティ心理学――実践研究のための方法論―― 新曜社
9. 日本行動分析学会 (編) 山本 淳一・武藤 崇・鎌倉 やよい (責任編集) (2015). ケースで学ぶ行動分析学による問題解決 金剛出版
10. 大竹 文雄 (2019). 行動経済学の使い方 岩波新書
11. サトウ タツヤ・春日 秀朗・神崎 真実 (編) (2019). 質的研究法マッピング 新曜社

以上